

大会宣言（案）

私たちは本日、第22回定期大会を開催し、党員の活発な討論により、この1年間の活動を総括し、2019年度の運動方針を決定しました。

安倍晋三首相は、2月の自民党大会で「悪夢のような民主党政権」と述べ野党を揶揄しています。私たちにとって正に「悪夢のような」あの日、2015年9月19日、安倍政権は安全保障関連法を強行採決し戦争ができる国づくりへ走り出しました。全国の平和を愛する人々は、「安保関連法」の強行採決に抗議して、全国で「戦争させない・9条壊すな総がかり行動」が提起され、毎月19日行動が行われるようになりました。この運動が野党と市民の共闘を作り出し、山梨県でも大きな運動として定着してきています。この市民と野党の共闘は、3年前の参議院選挙で野党統一候補、宮沢ゆかさんの勝利を勝ち取りました。その後、各地に市民ネットや市民アクションが結成され、「安倍改憲 NO!3000万署名」が取り組まれています。こうした運動を通して新社会党は政党として認知され存在感を増しています。私たち新社会党は、7月の参議院選挙は野党と市民の統一候補を実現し、選挙闘争勝利に向けて全党員全力で闘うことを確認しました。

また、安倍政権は消費税を10月に10%に値上げしようとしています。消費税は逆進性があり、低所得者にとって負担が重くなります。国民生活や景気の悪化を招く消費税率の10%への引き上げには断固反対し、7月の参院選は生活を守るために消費税値上げを阻止する闘いにしなければなりません。

沖縄では「普天間基地・辺野古移設」をめぐって2月24日県民投票が実施され、「埋め立て反対」が7割以上に達し沖縄の民意は示されました。しかし、安倍政権はこの結果を踏みにじり、埋め立てを継続しています。私たちは、辺野古新基地建設反対運動に連帯し、積極的に行動していくことを確認しました。

福島第一原子力発電所事故は、8年経ちましたがいまだ収束されていません。汚染水は垂れ流し、避難民も帰還を迫られていますが、逆に事故後の健康被害拡大の報告が明らかになってきています。山梨県内では「さよなら原発まつり」や毎週金曜日の「甲府でもやるじゃん」などの脱原発行動に参加し、あきらめずに脱原発運動を継続していきます。

今年の19春闘は、ここ数年続いた官製春闘も影を潜め、「大手は軒並みベア前年割れで景気好循環にならない。民間大手労組の中では、ベア要求水準を明らかにしない動きが強まってきている。こうした動きは、企業・産別の壁を越えて積み上げてきた「春闘」を否定する動きにつながる」と大手マスコミは伝えています。私たち新社会党は労働者を代表する政党であり、階級的労働運動の再生に向けて闘います。

この他、私たち新社会党の取り組むべき当面の課題は山積していますが、党勢拡大に努め、運動の強化をはかり、国民に期待される政党に躍進することをめざしていきます。

本日の第22回定期大会で議論され決定された活動方針を、党綱領の指し示す路線に沿って全党員が全力で取り組みましょう。そして、その闘いの成果が搾取と階級対立のない新しい社会の実現につながることに自信と確信を持ち、一致団結して闘い抜くことをここに宣言します。

2019年3月28日

新社会党山梨県本部 第22回定期大会